

那須の歴史  
再発見!

# 那須町と 近現代の人々

vol.28



笹沼敬司 (1880-1956)

4月号は、那須村消防組頭・那須村長を歴任した笹沼敬司を紹介します。

敬司は、明治13年に羽田村(現大田原市)の平山助之丞の4男として生まれました。助之丞は銘酒「藤の盛」で有名な平山酒造の2代目です。敬司の兄には、関東醸造で常務取締役を務めた小室一造がおり、また息子には笹沼賢彌(第3代那須町長・栃木県議会副議長などを歴任)がいます。

敬司は、両郷村(現大田原市)の笹沼家に婿養子となります。笹沼家は製材やその販売・薪炭業などを手掛け、明治36年頃に黒田原に店を構えたといいますが(笹沼商店)。店舗は一度焼失しましたが、大正6年に新築されましたが、敬司は商才を発揮し、薪炭業では大正11年に開催された平和記念東京博覧会で木炭を出品し、銅牌を受賞し

ました。また明治39年に那須石材合資会社を設立し芦野石の販売を手掛けています。

敬司は、経済的な地位を固めたことからその後、那須村会議員、那須村消防組頭を歴任しています。敬司は明治39年から那須村消防組第三部の一員となると、大正時代後期から村消防組頭を務め、ガソリンポンプ車の導入をするなどしました。また消防組在任中には黒田原神社に仲間とともに狍犬を奉納しています。このような長年の消防組への貢献から、昭和13年に永年勤続者として表彰されました。昭和17年8月から同21年1月まで、敬司は那須村長を務めました。在任期間中は、黒田原への馬市の移転、那須湯本大火、戦後開拓による入植者への対応にあたるなどしています。

黒田原の名士として政治・経済ともに那須村の発展に尽くした敬司は、昭和31年に亡くなりました。今年(2024年)は町制70周年の節目の年です。現在、明治以降に首長や議員を務めた方々の資料の散逸・廃棄が全国的な課題となっています。これらは町の在り方がわかる貴重な資料です。

那須町の歴史を未来に伝えるため、町内外の方で該当する方は、一度探訪館へご相談ください。

▼問合せ 那須歴史探訪館  
☎74・7007



笹沼商店での集合写真

## かつこう

タケノコが顔を出す季節。父は唐鍬、私は肥料袋を持ち、裏山に登る。狭い山道の先にある斜面に竹林は広がっていた。到着するやいなや、父は片っ端からタケノコを掘っていく。私はぶっくりと形のいいものだけを袋に入れ、育ち過ぎてしまったものは、そのまま地面に転がしておいた。「私もアレやりたい」不満げに見つめてい

る娘に気付いたのか、父は「ほら、気をつけろよ」と鍬を差し出した。ずっしりとした感触の鍬は、子どもにはまだ容易に扱えそうにない。それでも、見よう見まねでやってみる。タケノコを見つけ周りの土を掘る。根元が見えてきたら、そこをめがけて一気に振り下ろした。ザクツという音とともに刃がタケノコに突き刺さったが、まだ浅い。しかも根本よりだいぶ上だ。2度3度繰り返し、ようやく掘り起こすことができた。▼那

須町の総面積のうち約63%を森林が占めている。最も多いのは広葉樹林、次いで針葉樹林で、竹林はほんの一部だ。本町の森林は里山林、人工林、天然生林と幅広く、それ故課題もさまざまである。先日、高久小学校6年生がアカマツの苗木を植樹した。直接、自らの手で植えたアカマツには、特別な思いが生まれるだろう。子どもの頃の経験が未来へつながり、課題解決の一助となるよう、これからもたくさんの方の経験を重ねてほしい。

こんにちは

## 赤ちゃん



令和4年12月生まれ

れんと  
青野 蓮翔くん



れんとくんは…  
バイクに乗ること、食べること大好き♡

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報広聴係(☎72-6935)まで。

## 町の世帯と人口 (3月1日現在・住民基本台帳) ( )の数字は前月比

・世帯数	10,710世帯 (+20)	出生	1人 (-3)
・人口	23,916人 (-17)	死亡	38人 (-12)
	男 11,930人 (-2)	転入	77人 (+27)
	女 11,986人 (-15)	転出	58人 (-23)
		その他	1人増

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

